

ロアーニャ家は19世紀以来、バルバレスコの地に根を下ろしてきた歴史ある名門であり、1880年に同地が正式に格付けされる以前からワイン造りを行ってきた。現在ではバルバレスコを代表するのみならず、イタリアの最重要生産者の一人である。創業以来、除草剤・殺虫剤・化学肥料が使用されず、近年は不耕起・無施肥を基本方針としてきた。畑には腰の高さまで雑草が生い茂るが、それは生物多様性を受け入れ、土地の生命力を最大限に引き出すための意図的な姿だ。2025年現在、バルバレスコ、パローロ、コッリ・トルトネージにまたがり約20haを所有し、そのうち15haがブドウ畑、残りは森が残されている。バルバレスコのアジリ、パイエ、パローロのピーラやロッケ・ディ・カステリオーネなど、ランゲの王冠のような区画を所有。しかし、たとえ名だたるクリュであっても樹齢25年未満のブドウはすべてランゲ・ロッソへ格下げされる。クリュの名を守るための、この妥協なき姿勢は家訓とも言える。 現当主ルーカ・ロアーニャがワイナリー運営に本格的に参画した2000年代以降、その哲学は「10のマニフェスト」として明文化され、古樹、歴史的区画、生物多様性を重視する思想がより鮮明になった。いずれのワインも長期熟成を志向しており、白ワインでは、発酵前に果汁を酸化させることで高い安定性を確保し、熟成とともに豊かな表現力を引き出していく。一方、赤ワイン、なかでもネッビオーロは、長期マセレーションを経た後、大樽やセメントタンクで熟成され、その期間は3年から、時には10年にも及ぶ。こうして生まれるワインは、複雑味と香りの奥行きを備え、時間の経過とともに真価を現す。

	○Langhe Bianco ランゲ・ビアンコ			備考	古くからのセラーに隣接する畑で栽培されたシャルドネで醸造。年間約5000～6000本のみの生産。2003年に初醸造してから、2006年を除いて毎年生産している。ロアーニャのラインナップの中では、長期の熟成を目的としておらず、ワインが若いうちに果実の鮮烈さを楽しんでもらうことを意図したランゲ・ビアンコ。
	畑	品種：シャルドネ主体、ネッビオーロ 植樹：1980年代	醸造 大樽で醗酵 大樽で2年間熟成		
	○Langhe - Solea ランゲ ソレア			備考	香りは芳醇だが果実以外の余計な芳ばしさ無く素直。肉厚な香りに反して口当たりは流麗で、染み込むような味わいとまっすぐな酸を機軸にした余韻が心地よく続く。 シャルドネは、ネッビオーロの植わるピーラの区画に植えられており、ロアーニャ家がピーラの区画を購入した時に、すでに植えられていた。長期熟成を狙った、白ワイン。
	畑	品種：シャルドネ主体、ネッビオーロ 植樹：1988年 位置：標高300m、南東 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている	醸造 大樽で醗酵 大樽で2年間熟成		
	○Dertona - Montemarzino デルトーナ モンテマルツィーノ			備考	ランゲから東に70～80km。ピエモンテ州とロンバルディア州の州境のトルトーナ地域の地品種ティモラッソを原料と使用。 2014VTから生産を始めた畑。縁あって手に入れることが出来た畑で、ロアーニャ家で管理をしている。
	畑	品種：ティモラッソ100% 土壌：石灰質土壌	醸造 全房で数時間のスキンコンタクト 大樽で醗酵 大樽で2年間熟成		

	●Dolcetto d'Alba ドルチェット・ダルバ			備考	パイエとカルソ、2つの区画に植わるドルチェットをブレンド。ネッピオーロの区画に植わる古木のドルチェットだが、植え代えることなく、そのままにする。ドルチェットもまた、他の赤ドウ同様、醗酵終了後までも続く長期のマセレーションをかけているが、飲み心地は驚くほどなめらか。
	畑	品種：ドルチェット100% 植樹：1970年頃 位置：東向き 土壌：泥灰土に富む。石灰、粘土質	醸造		
	●Barbera d'Alba バルベラー・ダルバ			備考	バローロのピーラの区画に植わるバルベラー。ネッピオーロの区画に植わる古木のバルベラーだが、植え代えることなく、そのままにしてある。鋭い酸と、重厚なタンニンに惜しみなく抽出し、たっぷりと時間をかけて熟成させた。
	畑	品種：バルベラー100% 植樹：1970年ごろ 位置：南東向き、標高300m 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている	醸造		
	●Langhe Rosso ランゲ・ロッソ			備考	バローロ・ピーラと、バルバresco・パイエの畑の若木からのドウのブレンド。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1993～1998年頃 位置：標高250m、南西、南東向き 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている。泥灰土に富む	醸造		
	●Barolo Del Comune di Barolo バローロ・デル・コムネ・ディ・バローロ			備考	バローロ・デル・コムネ・ディ・バローロだが、レ・コステの西側に位置するテルロ区画にロアーニャ家が所有する0.17haの小さな区画の単一区画のキュヴェ。2013VTより醸造。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1967年 位置：標高300m	醸造		
	●Barolo - Rocche di Castiglione バローロ ロッケ・ディ・カスティリオーネ			備考	2016年に購入した、カスティリオーネ・ファレット村の畑。0.48haの区画で、ピーラのある丘の真上に位置する。マルヌの多いピーラと比べると、畑には石灰岩が非常に多く、ワインの味わいも硬質な印象を受ける。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1970年代 位置：標高300m、南向き 土壌：粘土石灰質、白い岩と砂で構成される	醸造		
	●Barolo - Pira バローロ ピーラ			備考	ピーラはカスティリオーネ・ファレット村に、ロアーニャが所有するモノポール（単独所有）の区画。比較的若いドウ樹のみを使用し、モンフォルテやセッラルンガと同一の地層（エルヴィツィアーノ層）で、トゥーフォとランゲと呼ばれる、石灰質の砂質土壌が特徴。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1990年代 位置：標高300m、南東 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている	醸造		

	●Barolo - Pira Vecchie Viti バローロ ピーラ・ヴェッキエ・ヴィーティ			備考	バローロ地区の中心部、カスティリオーネ・ファレットのエリア内のピーラの区画のなかでも、樹齢が50年以上のものを選別。トゥーフォとランゲと呼ばれる、石灰質の砂質土壌が特徴。一番古い樹は1937年に植樹されたとされる。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1960～1970年代 位置：標高300m、南東 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている	醸造		
	●Barolo - Pira Riserva バローロ ピーラ・リゼルヴァ			備考	カスティリオーネ・ファレット地区内のピーラの区画のなかでも、特に樹齢が高いものを選別。ロアーニャエティケッタ・ネーラ（黒いラベル）あるいはリゼルヴァと名付けられるワインは、最低でも瓶詰までに15年間、木製樽、コンクリートタンク、セラミックタンクでの熟成がなされる。VTによっては収穫年から20年後にリリースされることも。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1937年以前 位置：標高300m、南東 土壌：鉄分を多く含む石灰岩、泥灰土、砂質が層になっている	醸造		
	●Barbaresco - Gallina バルバレスコ ガッリーナ			備考	ガッリーナは、バルバレスコの中でも北側に位置するネイヴェ村の区画のひとつで、アルベサニの南に隣接する畑。粘土石灰質土壌に含まれる砂の存在が、このワインに際立ったフィネスを与えている。2014VTより醸造。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 位置：標高約240m 土壌：砂を多く含む粘土石灰質土壌	醸造		
	●Barbaresco - Faset バルバレスコ ファセット			備考	ファセットは、アジリの北西に隣接する区画。タナロ川から直線距離で約1kmと川から非常に近い距離にあるため、比較的温暖な気候が特徴とされる。2013VTより醸造。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 位置：標高約240m 土壌：粘土石灰質土壌	醸造		
	●Barbaresco - Albesani バルバレスコ アルベサニ			備考	アルベサニは、バルバレスコのエリアの中でも北東のネイヴェ村周辺の丘。ロアーニャ家が所有するのはその中でも、タナロ川からは離れた位置にある、丘の頂上に面する南西向きの区画でセレクション・マサルで植樹された。2007年にMGAに認定。石灰が豊富な土壌によって、しっかりとした骨格がワインには現れる。2014VTより醸造。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1950年代、1980～1990年 位置：標高240m、南西向き 土壌：粘土石灰質土壌	醸造		

	●Barbaresco - Asili Vecchie Viti バルバレスコ アジリ・ヴェッキエ・ヴィーティ			備考	1961年にロアーニャ家が購入。パイエの丘に隣り合うアジリの丘の区画で面積は0.22haほど。丘のちょうど真ん中に位置し、畑は切り立った崖地に近く、パイエの丘へと続くが、パイエの土壌よりも、赤や黄色の砂質が多く含まれる。その筋状に入り込む砂質の層がワインに繊細さをもたらすとされる。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1967年 位置：標高250m、南西向き 土壌：砂を多く含む粘土石灰質	醸造		
	●Barbaresco - Montefico Vecchie Viti バルバレスコ モンテフィーコ・ヴェッキエ・ヴィーティ			備考	ロアーニャ家が所有する畑の中でも、最も古い畑の一つ。丘の中腹、0.24haの小さな三角形の区画。マルヌの層があり、樹齢もとびぬけて高く、火打ち石のような薫香がワインには現れる。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1967年（一部1917年以前のものもある） 位置：標高230m、南東向き 土壌：粘土石灰質土壌、泥灰土に富む	醸造		
	●Barbaresco - Pajè バルバレスコ パイエ			備考	1953年からロアーニャ家が所有する畑で、1.83ha所有。パイエの丘は、ランゲ地方の典型的な丘陵地形で半円形劇場状の地形は、丘自身によって強い風から守られ、タナロ川の谷に面して開かれているため、冬の寒さや夏の暑さが和らげられる。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1967～1992年 位置：標高230m、南～南西向き 土壌：活性石灰の含有量が高い石灰質泥灰土	醸造		
	●Barbaresco - Pajè Vecchie Viti バルバレスコ パイエ・ヴェッキエ・ヴィーティ			備考	パイエ・ヴェッキエ・ヴィーティは2007年に、パイエの畑の中でも特に樹齢の高いブドウ樹のみから畑を表現することを目的として造り始めた。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1957年 位置：標高230m、南～南西向き 土壌：活性石灰の含有量が高い石灰質泥灰土	醸造		
	●Barbaresco - Crichët Pajè バルバレスコ クリケット・パイエ			備考	クリケットとはピエモンテの方言で、“小さな丘の上の部分”という意味で、まさにネッピオーロのように、常に風にさらされる必要のある品種の栽培に最適と言える。 パイエの畑を1953年に買ったルーカの祖父によって、パイエの畑の中でも最良の区画が選別された。ネッピオーロという品種を理解するため、そしてまた、家族の特別な行事のみに楽しめるワインだったそうだが、ルーカの父アルフレッドによって1978年に初めてクリケット・パイエの名で販売が始まる。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1957年 位置：標高230m、南西 土壌：石灰質の泥灰土、活性石灰（calcareo attivo）の含有量が特に多い。	醸造		
	●Barbaresco - Crichët Pajè Riserva バルバレスコ クリケット・パイエ・リゼルヴァ			備考	クリケットとはピエモンテの方言で、“小さな丘の上の部分”という意味で、まさにネッピオーロのように、常に風にさらされる必要のある品種の栽培に最適と言える。 パイエの畑を1953年に買ったルーカの祖父によって、パイエの畑の中でも最良の区画が選別された。ネッピオーロという品種を理解するため、そしてまた、家族の特別な行事のみに楽しめるワインだったそうだが、ルーカの父アルフレッドによって1978年に初めてクリケット・パイエの名で販売が始まる。 ロアーニャエティケッタ・ネーラ（黒いラベル）あるいはリゼルヴァと名付けられるワインは、最低でも瓶詰までに15年間、木製樽、コンクリートタンク、セラミックタンクでの熟成がなされる。VTによっては収穫年から20年後にリリースされることも。
	畑	品種：ネッピオーロ100% 植樹：1957年 位置：標高230m、南西 土壌：石灰質の泥灰土、活性石灰（calcareo attivo）の含有量が特に多い。	醸造		